

平成29年度シラバス（資源増殖）

学番78 新潟県立海洋高等学校

教科（科目）	水産（資源増殖）	単位数	4単位	学年（コース）	2学年（資源育成コース）
使用教科書	資源増殖（実教出版）				
副教材等					

1 学習目標

水産増養殖に関する基本的な知識と技術を習得させ、水産物の資源増殖と生産性の向上に活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

栽培技術コースの基幹科目として2年次から行われる【総合実習】や、3年次に行われる【海洋生物】などの発展科目に対応できる能力を形成するため、

①日本の漁業の現状をふまえた資源増殖の意義とその必要性を理解させることを目指します。
 ②魚介類の種苗生産と資源増殖に必要な技術と知識について、その基本となる原理を理解させることを目指します。
 ③水産分野の育種やバイオテクノロジーの概要・基本的な技術方法を理解させることを目指します。
 ④増養殖業の現場で実際に活用できる実践的な能力を育てることを目指します。

3 指導計画

全体座学（4単位）					
月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	○資源増殖の概要	○資源増殖の意義・沿革 ○資源増殖の方法	○資源増殖の重要性や必要性について理解し、またその原理と方法についての知識を習得する	16	定期考査 授業の取組 ノート
5	○種苗生産	○初期餌料と餌料生物の培養 ○種苗の育成	○同時期に行われる【総合実習】とリンクし、飼育・繁殖技術の習得を第一とする。また餌料生物の生態や生活史の知識も併せて習得する。		
5	1学期中間考査				
6	○種苗生産	○天然種苗と人工種苗	○仔稚期の減耗とその原因を知り、種苗の育成の必要性を理解する。	24	
7	1学期期末考査	○種苗供給の現状と展望	○それぞれの長所・短所を理解し、その長所を生かす管理知識を習得する。		
9	魚類増殖	○種苗の放流・移植 ○中間育成	○【海洋環境】に繋がる分野なので、基礎的知識の習得に留まらずに環境・資源管理のあり方を生徒自身に考えさせる。	32	
10	2学期中間考査	○環境改善と漁業管理			
11	海藻・貝類養殖	○養殖方法と施設管理	○養殖する魚貝類の種類に適した養殖法と施設管理、特に汚染対策についての知識を習得する	36	
12	○飼料	○飼料の現状と展開 ○摂餌・消化・吸収	○飼料効率や消化率の学習を通して、生産している種苗に合った給餌ができるようになる。		
12	2学期期末考査				
1	○魚病	○病気の誘因・感染と発病 ○病気の種類 ○病害対策	○種苗の大量死亡に繋がる病気の早期発見・対策ができるように、種類の特長とそれに適した対応ができる能力を身に付ける	16	
2					
3	学年末考査				

計32×4時間（55分授業）

4 課題・提出物

各定期考査終了時に授業ノートを提出します。
 夏季および冬季休業中の課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
水産増養殖について関心を持ち、基本的な知識と技術の習得に意欲を持って取組もうとしている。	漁業全体における水産増養殖の重要性を把握し、自らの思考を深め、知識と技術を活用して、適切に判断し創意工夫する能力を身に付けようとしている。	水産増養殖に必要な技術と手法を身に付け生産性向上を図るとともに、その成果を的確に表現できる。	水産増殖の分野での技術革新に主体的に対応し、水産資源の生産性向上や消費者のニーズに応えられる知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ ○授業への取組（授業態度、出席状況など） ○ノート、レポート提出 ○定期考査 などから、総合的に判断します。			

6 担当者からの一言

この科目では、水産生物の増殖や養殖に関する基本的な方法や理論などについて学びます。水産増養殖を行う上で身に付けていなければならない大切な技術・知識です。将来、栽培漁業関係の職業に就く場合はもちろんのこと、他の職業に就く場合でも食生活に密接な関係がある事柄として学んでおくことは大変意味があります。
 (担当：渡邊憲一、増田真之介)